

2019年4月14日(日)朝10:10～ 復活前第1、受難節第6・自由交歓会
4月第2棕櫚の共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：仕える姿をとられた主

聖書:ピリピ° 2章5～11節

＜口語訳＞

新約聖書309～310頁

ピリピ° 2章5～11節

＜新共同訳＞

新約聖書363頁

ピリピ° 2章5～11節

＜新改訳第3版＞

新約聖書384頁

ピリピ° 2章5～11節＜塚本訳＞

新約聖書918～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **ピリピ書**は、使徒パウロが、ローマで獄中の立場で**ピリピの教会**へ**エパフロデト**の慰問派遣の感謝と病気になった**エパフロデト**を送り返すにあたって、**教会員同士の対立、律法主義の問題等**を書き、**エパフロデト**に託した書簡です。
- ◇ 本日の**ピリピ2章5～11節**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**謙遜**を語り、「**イエス・キリストは主である**」と告白してほしいと語っている箇所です。
- ◇ **謙遜・柔和**は、**受苦を味わわれたエルサレム入城**で示され、**ゼカリヤ9:9**の預言が成就し、**のイザヤ書42:1**の預言も証しする**主のしもべの姿**が示すことばでもあります。
- ◇ **ゼカリヤ9:9**は、「**【口語訳】シオンの娘よ、大いに喜べ、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る**」で、群衆はローマからの解放者として**ホサナ**(どうぞ救ってください)と迎えたのです。

⇒もう1つの主なる救い主(メシヤ)のしもべ預言のイザヤ42:1「【口語訳】わたしの支持するわがしもべ、わたしの喜ぶわが選び人を見よ。わたしはわが霊を彼に与えた。彼はもろもろの国びとに道をしめす」と、「わがしもべ」は、ヘブル語も、ギリシヤ語も、「わが奴隸」が基本訳ですが、「仕える者」(ピリピ2:7)で用いられ、「わがしもべ」は、「主なる救い主(メシヤ)のしもべ・仕える者」です。

⇒「わがしもべ・仕える者」は、「ゼカリヤ9:9」の「柔和なお方」・「御子イエス・キリスト様」は、ピリピ書2:7では、「仕える者・謙遜なお方」、マタイ5:5では、キリスト者も、「【口語訳】柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう」と、「神の国において柔和がいかに大切なキリスト者としての特質であるかを教えている」(新聖書辞典)。

⇒「棕櫚の主日」にあたって、牧会手帳は、ピリピ書2:5~11を指定していますが、徹底して、「謙遜・心の貧しい者」にまで、「仕える者」、神と人にご自身のいのちを与え尽くして、十字架を背負って、生きる真の人を描きます。

本論；

◇本日、ピリピ書2章5～11節から主の使信に
思い・心をとめます。

◆ピリピ2章5～11節；使徒パウロは、神のしも
べ・仕える者として、「**柔和な謙遜なお方**」の
姿になって、神と人に徹底して従順のお方を
示しました。

◇2：5～11節；塚本訳◆**教会の和合－
キリストの讚美歌**

「5 キリスト・イエスに在る思いで互いを思え。

6 彼は(先には)神の姿であり給うたが、神と
等しくあることを棄て難いことと思わず、

7 かえって自分を空しうして人と同じ形になり、
奴隷の姿を取り給うたのである。そして
人の様で現れた彼は、

8 自ら謙り、死に至るまで、(然り、)十字架の死
に至るまで(父なる神に)従順であり給うた。

9 それ故に神も彼を至高く上げ、凡ての名に
優る(「主」なる)名を与え給うた。

10 これはイエスの(この尊い)名の前に、天の
上、地の上、地の下にある『万物が膝を
屈め、

11 凡ての舌が『イエス・キリストは主なり』と『告白して』父なる『神に』、栄光を帰せんためである。」と、使徒パウロは語っています。

◇ 5～8節；「キリスト・イエスに在る思いで互いを思え」、「彼は(先には)神の姿であり給うたが、神と等しくあることを棄て難いことと思わず、かえって自分を空しうして人と同じ形になり、奴隷の姿を取り給うた」、「人の様で現れた彼は、自ら謙り、死に至るまで、(然り、)十字架の死に至るまで(父なる神に)従順であり給うた」と、「御子イエス・キリスト様」は、「人の様で現れ」、「自ら謙り、死に至るまで、(然り、)十字架の死に至るまで(父なる神に)従順であり給うた」のです。

⇒「御子イエス・キリスト様」は、「神の姿」なのに「奴隷の姿・しもべの姿」を取り、「人の様で現れて」下さったのです。

⇒「神の姿」と「奴隷の姿」は、本質的ですが、「人の様」は、類似を現すギリシャ語です。

⇒「御子イエス・キリスト様」は、「人の様」になるほど身を低くして「仕える者」となられた。

◇9～11節；「それ故に神も彼を至高く上げ、
凡ての名に優る(「主」なる)名を与え給うた」、
「これはイエスの(この尊い)名の前に、天の上、
地の上、地の下にある『万物が膝を屈め、凡て
の舌が』『イエス・キリストは主なり』と『告白
して』父なる『神に』、栄光を帰せんため
である」と、「御子イエス・キリスト様の謙遜」は、
「それ故に神も彼を至高く上げ、凡ての名に
優る(「主」なる)名を与え給うた」とは、「御子
イエス・キリスト様の復活と栄光」をあかして
います。

⇒そして、神は、「これはイエスの(この尊い)名
の前に、天の上、地の上、地の下にある『万物
が膝を屈め、凡ての舌が』『イエス・キリストは
主なり』と『告白して』父なる『神に』、栄光を
帰せんためである」と、「イエス・キリストは主
なり」と、「告白して、神に栄光を帰す」ことを
お求めになったのです。

⇒「御子イエス・キリスト様の謙遜・柔和」は、
「人の様」にまでなり、「神の姿・栄光の姿」に
なられたのです。

⇒「イエス・キリストは主なり」と、「告白」する。

結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ **ピリピ書**は、使徒パウロが、ローマで獄中の立場でピリピの教会へエパフロデトの慰問派遣の感謝と病気になったエパフロデトを送り返すにあたって、**教会員同士の対立、律法主義の問題等**を書き、エパフロデトに託した書簡です。
- ◇ 本日の**ピリピ2章5～11節**は、神の御子イエス・キリスト様の**謙遜**を語り、「**イエス・キリストは主である**」と告白しています。
- ◇ **謙遜・柔和**は、受苦を味わわれたエルサレム入城で示され、ゼカリヤ9:9の預言が成就し、のイザヤ書42:1の預言も証しする主の**しもべの姿**が示すことばでもあります。
- ◇ **ゼカリヤ9:9**は、「**【口語訳】シオンの娘よ、大いに喜べ、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る**」で、群衆はローマからの解放者として**ホサナ**(どうぞ救ってください)と迎えたのです。

⇒もう1つの主なる救い主(メシヤ)のしもべ預言のイザヤ42:1「【口語訳】わたしの支持するわがしもべ、わたしの喜ぶわが選び人を見よ。わたしはわが霊を彼に与えた。彼はもろもろの国びとに道をしめす」と、「わがしもべ」は、ヘブル語も、ギリシヤ語も、「わが奴隸」が基本訳ですが、「仕える者」(ピリピ2:7)で用いられ、「わがしもべ」は、「主なる救い主(メシヤ)のしもべ・仕える者」です。

⇒「わがしもべ・仕える者」は、「ゼカリヤ9:9」の「柔和なお方」・「御子イエス・キリスト様」は、ピリピ書2:7では、「仕える者・謙遜なお方」、マタイ5:5では、キリスト者も、「【口語訳】柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう」と、「神の国において柔和がいかに大切なキリスト者としての特質であるかを教えている」(新聖書辞典)。

⇒「**棕櫚の主日**」にあたって、牧会手帳は、ピリピ書2:5~11を指定していますが、徹底して、「**謙遜・心の貧しい者**」にまで、「**仕える者**」、神と人にご自身のいのちを与え尽くして、十字架を背負って、生きる真の人を描きます

- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**神の姿**」であるのに、「**奴隷の姿・人の様**」になって、十字架の死を背負ってまでも「**仕える者**」となって下さったのです。
- ⇒使徒パウロは、「**仕える者の姿**」を取って下さったお方を「**イエス・キリストは主なり**」と告白するように導かれよと訴えています。
- ⇒棕櫚の主日礼拝にあたって、「**御子イエス・キリスト様の心を心として**」、真心からの「**ホサナ**」で、主をお迎えしたい。